

## 旅行者の意思決定モデルから考える高知県の観光課題

—コロナ禍における観光産業—

1220423 大久保亮汰

指導教員 肥前洋一

### 研究背景

高知県の地方創生を考える上で、県内の経済状況や人口減少を踏まえると、県外や海外からの消費を増やす方法が得策であると考えられる。また、高知県の産業別就業者割合は第3次産業が多くを占めており、第3次産業の利益を増加させることが必要と考え、観光業に着目した。

### 研究目的

本研究は、高知県が観光客をどのような政策で獲得するのかを提言するべく、旅行者の意思決定モデルを新たに構築する。

### 調査・分析方法

日本の観光産業の現状を整理し、高知県の観光現状を挙げて課題を明らかにする。旅行者の意思決定モデルを新たに構築して分析を行い、モデルの妥当性を説明し、分析結果から高知県の観光振興に対する政策を提言する。

### 分析結果

「旅行先のイメージ」「旅行の手配」「旅行経験、評価」をモデルに新たに組み込み、各旅行者に対する影響要因からプロセスを分析した結果、高知県は自然の観光整備と情報発信、若年層に対する情報の発信と方法に課題が存在することが明らかになった。

### 考察・結論

「自然」「SNS」「情報」の各要素の課題が明らかになり、政策を提言した。「自然」は、コロナ禍で注目を集める「アウトドア」での観光政策が有効であり、「情報」は、旅行者が知りたい有益な情報の発信を公的で随時更新可能な高知県のホームページや公式 SNS で行うことが必要であり、「SNS」は、観光客に SNS 投稿を促す政策が有効であると考察した。以上の「自然」「情報」「SNS」についての課題を改善する政策を実施することで、本研究で構築した旅行者モデルの意思決定プロセスを推し進め、観光振興が可能となる。